

## 1 改正の主な概要

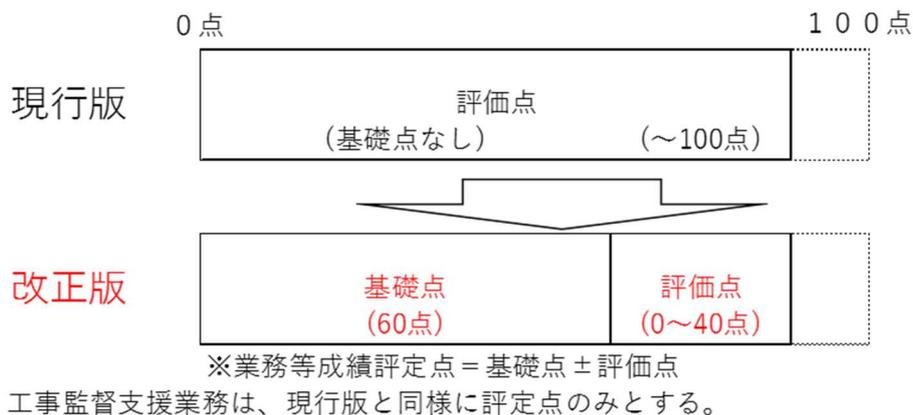
### (1) 評価対象業務の細分化

土木分野における評価対象業務を3業務としていましたが、下表のように7業務へ細分化します。

現行版		改正版
地質調査・単純調査業務・測量業務	➔	地質調査業務
		単純調査業務
		測量業務
調査業務・計画業務	➔	設計業務(調査・計画)
		工事監督支援業務
設計業務	➔	設計業務(概略・予備設計)
		設計業務(詳細設計)

### (2) 改正のポイント

① 受注者が当然果たすべき項目を基礎点として整理し、評価項目を明確にします。



② 必須項目と選択項目を分けて整理。業務内容に応じて選択可能とします。

(2) 設計業務「調査・計画業務」 業務名: 設計業務名(調査・計画業務)											
(記入方法) (選択)該当し、(非該当)― (評価)評価し、(非評価)―を選択する。											
審査項目	細別	選択区分	評価区分	業務、管理、担当技術者	a	a'	b	b'	c	d	e
					5	—	2.5	—	0	-2.5	-5
実施能力の評価	実施体制と執行計画	●	●	●							
				1. 業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されている。 2. 特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が理解されている。 3. 管理技術者は、契約図書等に基づき、業務の技術上の管理を適切に行っている。 4. 担当技術者は、設計図書等に基づき、適正に業務を実施している。 5. 担当技術者は、優れた技術力や創意工夫をもって、業務の成果に貢献している。 6. 業務の実施方針における検討方法は、本業務の目的を十分理解し、成果を得るための的確な手順、手法であり、他の手本となすべき優れたものである。 7. 業務の実施体制は、業務内容に応じた適切な人員配置であり、業務の停滞や手戻りを生じさせず完了させた。 8. 業務実施段階で判明した重要な事実等を速やかに変更業務計画書に反映し提出されている。 9. その他 ( ) (対象: 管理、担当技術者)							
				●判断基準 ◎評定は1～9のうち 評価値が90%以上…………… a 評価値が70%以上90%未満…………… b 評価値が70%未満…………… c							
				① 「評価対象項目」のうち、(選択)のチェック欄があるものは、選択項目として該当する場合にチェックし、評価対象の項目とする。その他は必須項目とする。 ② 必須項目と選択項目で選択した項目を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ◎ 評価値( ) = 該当項目数( ) / 評価対象項目数( )							

③ 工事と同様に、業務の特性を評価する項目を追加します。

考査項目	細 別	調査員	主任調査員	検査監	合計	
プロセス評価	実施能力の評価	実施体制と執行計画	5	5	10	20
	の実況施 評価状	執行管理	5			5
		品質管理	10		10	20
		業務特性		10		10
		創意工夫	4			4
	説明調整能力の評価	説明調整能力	6			6
	取組姿勢	責任感・積極性・倫理観		5		5
結果の評価	成果物の 品質	10		20	30	
評定者別評価点		40	20	40	100	

## 2 適用年月日

令和3年4月1日以降に完了する委託業務等に適用します。

	R元年度	R2年度	R3年度
現行版		令和元年度契約 令和2年度完了業務 令和2年度契約 令和2年度完了業務	
改定版		令和2年度契約 令和3年度完了業務	令和3年度契約 令和3年度完了業務